

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2012.09) 平成21年度:29.

ロービジョン患者の一事例を通し、地域との継続ケアを検討する

古内由美子、小澤和永、高橋糸子、佐藤雅子

## ロービジョン患者の一事例を通し、地域との継続ケアを検討する

8階東ナースステーション 古内由美子

### 【目的】

A氏の入院中、内服管理やインスリン手技・安全管理への介入を行い、MSWを介し訪問看護師への継続ケアを依頼した。その後、退院直後に2階から転落したとの情報があった。訪問看護師に依頼したケアがどのように展開されたか疑問に思い、ロービジョンケアの継続について振り返り検討したので報告する。

### 【方法】

看護記録から入院中のケアを抽出、訪問看護師への聞き取りと話し合い

### 【患者背景】

50歳代の女性（独身）両親、弟の4人家族（母親は難聴、父親・弟は視力障害）。糖尿病網膜症で両硝子体手術を受けたが、手引き誘導が必要な状態で、視力はNLP/0.09で退院となる。

### 【実践経過】

話し合いの結果、入院中のケアは、糖尿病の管理に視点が行き、インスリン手技・SMBG手技の確立や内服管理を中心に介入していた。訪問看護師もまた、退院時のカンファレンスで、「安全に対して手引き誘導にて移

動介助が必要であり、自宅での様子を見て危険回避して欲しい」と依頼しているが、ロービジョンで生活するという視点より、糖尿病の管理に視点が置かれた関わりとなっていた。

### 【考察】

入院中ケアの視点と、在宅での生活に関わる訪問看護師のケアの視点にわずかなずれがあり、退院時のカンファレンスのみでは、情報の不足があると分かった。入院中自宅の情報は、本人や家族からの言葉でしか得られず生活状況をイメージすることの難しさがある。訪問看護師は直接自宅の状況を見ることができる違いがあるが、その場での判断が要求される難しさがあり、互いの役割の理解を深めることが必要と考えた。

### 【結論】

- ・ロービジョン患者の在宅での生活をイメージした、関わりが重要である。
- ・情報交換を積み重ねることで、患者を共通理解し、継続できる。